

ゑひてまかてたまへり、

〔源氏物語六未摘花〕まづるだけのたかう、をせながに見えたまふに、さればよとむねつぶれぬうちつぎて、あなかたはとみゆるものは、御はな成けり、ふとめぞとまる、ふげんぼさちののりものとおぼゆ、あさましようたかうのびらかに、さきのかたすこしたりて、色づきたる事、ことのほかにうたてあり、いろはゆきはづかしく、えろうてさをに、ひたひつきこよなうはれたるに、なほしもがちなるおもやうは、大かたおどろく、まくながき成べし、やせ給へること、いとおしげにさらばひで、かたのほどなどは、いたげなるまで、きぬのうへまでみゆ、なに、のこりなうみあらはしつちんと思ふ物から、めづらしきさまのまれば、さすがに打みやられたまふ、かしらつき、かみが、りはしも、うつくしげにて、めでたしと思ひきこゆる人々にも、おさくをとりまじう、うちぎのすそにたまりてひかれたる程、一尺ばかりあまりたらんとみゆ、

鼻柱

〔倭名類聚抄三鼻柱〕黃帝内經云、水溝在鼻柱下。和名波奈波之良

〔箋注倭名類聚抄二鼻柱〕所引蓋明堂文、按甲乙經云、水溝在鼻柱下、人中、即其事也、

〔伊呂波字類抄波鼻柱〕ハナハシラ

〔撮壤集下支體〕鼻柱ハナハシラ

〔書言字考節用集五肢體〕類ハナハシラ、莖也、鼻莖、鼻柱順和名

〔身體和名集〕波ハナハシラ、類鼻莖

〔倭名類聚抄三鼻柱〕說文云、鼻、鳥鳥原、今據一本、改、鼻莖也、反、字亦作類、和名波奈久岐、

〔箋注倭名類聚抄二鼻柱〕新撰字鏡同訓、又訓波奈彌彌、今俗呼波奈須、自中所引頁部文、原書賜作

類云、或从鼻、曷釋名、類、鞍也、偏折如鞍也、

〔伊呂波字類抄波鼻柱〕ハナハシラ、類鼻莖也、

鬚